報道機関各位　　2013 年 7 月 12 日

認定特定非営利活動法人日本 IDDM ネットワーク

1 型糖尿病の患者・家族の会による同疾患の根治を目指した先進的医療研究への研究費助成 3 件を決定しました。

・２００８年度（2 件)、２０１０ 年度(3 件)、２０１２ 年度(2 件)に続き、通算 １０ 件の助成となります。

・iPS 細胞などの幹細胞による膵島再生や膵島移植部位の検討に関する課題へ助成します。

・今後も患者・家族のみならず、広く一般の方々、企業などからもこの基金への寄付協力をお願いしていきます。

＜概要＞

本年 7 月、全国の 1 型糖尿病の患者･家族の支援団体「認定特定非営利活動法人日本 IDDM ネットワーク」は、1 型糖尿病の根治につながる先進的な研究課題に対しての研究費助成を 3 件実施することとしました。応募された 10 件の研究課題の中から採択された課題は「iPS 細胞による異種動物での膵島再生」、「膵島移植の効果的な移植部位の検討」、「膵臓内の組織幹細胞による膵島細胞の作成」に関するものです。

この助成は当法人が 2005 年に設立した「1 型糖尿病研究基金」への患者･家族等からの寄付金を原資にしたもので、今回で**通算 10 件１０００万円の研究費助成**となります。基金の原資は主に患者･家族からの寄付で、その中には阪神タイガースの岩田稔投手（1 型糖尿病患者）からの大口の寄付も含まれます。

日本 IDDM ネットワークでは「2025 年に 1 型糖尿病の根治実現」という目標を設定し、患者･家族はもとより広く一般の方々や企業などに寄付への協力を呼び掛けています。

＜背景と詳細内容＞

■1 型糖尿病とは

「1 型糖尿病」はいわゆる生活習慣病として知られる 2 型糖尿病とは異なり、原因は不明ですが、比較的短期間に膵臓から生命維持に必須のホルモン「インスリン」が全く分泌されなくなる疾患で、日本では全糖尿病患者の数%と推定されています。

現在の治療法は絶対的に不足しているインスリンの補充療法のみで、患者は毎回の食事に応じたインスリンをその都度の注射（1 日 3～5 回程度）や機械（インスリンポンプ）による持続的な注入を行っています。食事療法や運動療法が中心の 2 型糖尿病とは原因も治療の考え方も全く異なります。

今のところ膵臓移植以外では、インスリンの補充を継続することが生きるために必須の対処法です。患者は副作用としての低血糖症や慢性的高血糖による合併症などのリスクと不安を抱えながら日々療養しており、患者･家族はその根治療法の確立、インスリン補充からの解放を心から願っています。

■基金設立と募金活動の経緯

2004 年 4 月に日本で初めてインスリン産生細胞(膵島)の移植「膵島移植」が京都大学で実施され、患者や家族に 1 型糖尿病根治への期待感が高まりました。一方、米国では 40 年も前から「1 型糖尿病研究財団（JDRF）」という 1 型糖尿病患者の親達が設立した研究助成団体が、世界中の 1 型糖尿病に関連する研究に対し、最近では毎年 100 億円以上の助成を行っています。

日本でもこのような先進的な医学･医療の研究を促進し、患者･家族の手で研究を支援する必要性を感じ、2005 年 8 月に「1 型糖尿病研究基金」を設立しました。その 3 年後にようやく基金は 200 万円に達し、2009 年 1 月に初めての助成を行いました。そしてその実績が患者･家族の意識を高めるきっかけになり、さらに阪神タイガースの岩田稔投手からの 1 勝 10 万円という寄付への大きな貢献もあり、2010 年度に 3 件、昨年 7 月には 2 件の研究助成を実施しました。最近は次第に患者･家族以外の方々からのご支援も広がり、本基金の認知も広がりつつあります。

■助成対象として採択された研究課題

今回は 3 件（300 万円）の助成枠に対して 10 件の応募があり、外部の専門家と患者･家族による審査によって次の 3 件の助成課題を採択しました。

(1) **異種動物個体内での膵臓作出と得られた膵島による糖尿病治療**

○研究代表者:

東京大学医科学研究所　幹細胞治療研究センター　助教　　山口 智之

○研究内容の概要:

膵島移植は１型糖尿病の有効な治療法の一つですが、一方で、慢性的なドナー不足は非常に大きな問題です。この問題を解決すべく、当グループでは異種の動物（ブタなど）の体内でヒト iPS 細胞からヒトの膵臓を再生させ、膵島移植治療に用いることを目標に研究を行っています。本研究はその基礎研究として、異種動物（小動物）で得られた膵島を移植し、その免疫原性および耐糖能について精査し、膵島移植治療モデルの構築を目指すものです。

(2) **膵島再生を促す新たな移植部位の検討　-脾臓が誘導する膵島再生機構-**

○研究代表者:

福岡大学医学部　再生･移植医学　准教授　　小玉 正太

○研究内容の概要:

膵島移植は１型糖尿病の低侵襲な根治術でありますが、その初回１回の移植でインスリンの離脱は未だ困難であり、インスリンからの離脱の為には数回の移植が行なわれます。これらの問題から、今後少ない膵島細胞で再生機転を促す、新たな治療法の確立が急務であると思われます。私たちは脾臓（ひぞう）が誘導する膵島再生機転に注目し、この機序を明らかとする事により、膵島移植部位の検討を含めた、移植膵島細胞を再生させる新たな治療法を目指します。

(3) **ヒト膵島分離後の残余膵組織からのインスリン産生細胞作成**

○研究代表者:

国立国際医療研究センター　膵島移植プロジェクト研究長　　霜田 雅之

○研究内容の概要:

１ 型糖尿病は膵臓のベータ細胞が免疫細胞によって攻撃･破壊されてしまう病気です。根治のためには、壊れてしまったベータ細胞を再び増やすことが考えられますが、現在のところ直接体内で増やすことはできません。そこで、いろいろな細胞からベータ細胞を試験管内で作り出す方法が研究されています。本研究では、膵臓の細胞のうちベータ細胞ではない細胞からインスリン産生細胞を作り出して移植する新しい治療法を目指すものです。

＜法人概要＞

○法人名:認定特定非営利活動法人日本 IDDM ネットワーク

○代表者:理事長　井上龍夫

○所在地:佐賀県佐賀市駅前中央 1-8-32 ｉｽｸｴｱﾋﾞﾙ 3F　市民活動ﾌﾟﾗｻﾞ内

○ＵＲＬ:　http://japan-iddm.net/

○事業内容等

平成７年１月 17 日に発生した阪神･淡路大震災では、被災地の患者はインスリンの入手等に大変な苦労を強いられました。この震災を契機に全国の患者･家族の連携を図るために、同年 9 月に発足しました。昨年8月には全国初の所轄庁（都道府県･政令市）認定のＮＰＯ法人（寄付に対して税制優遇措置有り）となりました。この根治に向けた研究助成の活動以外にも政策提言（20 歳以上の患者への支援策、介護職員によるインスリン注射の実現等）、調査研究（大規模災害対策、情報提供誌「1 型糖尿病お役立ちマニュアル」の作成等）、シンポジウム開催、療育相談等に取り組んでいます。

＜お問い合わせ先＞

認定特定非営利活動法人日本ＩＤＤＭネットワーク　理事長　井上龍夫　080-5127-2759（18 時以降）
又は事務局 TEL:0952-20-2062　（この件はできるだけ理事長へお問い合わせください）